

音楽祭を通じた芸術文化振興と地域振興

～「ながさき音楽祭」の成果と課題を考える～

古賀 弥生

はじめに

本稿は、文化イベント、特に音楽祭の意義を整理し、2012年度に第6回を開催した「ながさき音楽祭」の成果と課題を検討することを目的とするものである。

文化イベントには、文化的な価値に加え社会的、経済的価値があるとされ、その評価に際してもこの3つの視点を軸とすることが必要である。近年は文化イベントの開催が文化向上の観点よりも地域経済活性化を目的として企図される例も多いが、文化的・経済的価値に加えて社会的価値創出の観点からもその意義を検討する必要があるだろう。

本稿においては、まず文化イベントの意義とその評価のあり方にふれたうえで、文化イベントの一形態としての音楽祭について、日本における開催状況やその特徴を整理する。継続的な運営が行われている国内の音楽祭には、共通する要素や運営上の特性等があると考えられたため、それらを検討したうえで、「ながさき音楽祭」の成果と課題を明らかにしていく。

第1章 文化イベントの評価軸

文化イベントの評価に関して、文化的価値、社会的価値、経済的価値の3つの視点を提示し、これらを総合的に分析した例としては、沖縄県の「キジムナーフェスタ」の評価を行った勝村（松本）ら（2009年）の研究がある。勝村らは、先進諸国におけるアーツフェスティバルの開催について、第二次世界大戦後の文化復興の意味合いから80年代以降は都市再生のツールとしての役割が期待されてきたこと、それに対して日本国内では都市問題やコミュニティ機能の衰退といった社会的課題の台頭によって地域再生の課題を負わ

されており、公的資金を導入していることに対する説明責任を果たす必要もあることなどから、フェスティバルの評価がその文化的価値に加えてコミュニティに対する影響という意味での社会的価値、地域経済に対するインパクトとしての経済的価値の3つの側面を考慮することの必要性を提示しており説得力がある。

3つの側面のうち、近年特に注目されているのが社会的価値である。上述の勝村（松本）（2009年）では社会的価値について、子どもたちへの教育価値、戦争や基地と子どもたちとの関連性をテーマとした作品選出等から沖縄市の将来像を模索する役割、アーティストやボランティアのネットワーク、交流を通じた連帯感の醸成などを抽出している。

この3つの側面に関する評価を行う場合、どれに重きをおくのかは当該文化イベントの目的によって異なる。言い換えれば、文化イベントの実施に当たって、その目的が明確になっていないと評価の視点も定まらないことになる。

また、3つの側面のうち経済的価値については産業連関表等を用いた経済波及効果算出もある程度可能であり、一定の評価事例の蓄積がある。これに対して文化的価値については、主として当該文化イベントで展示、発表された作品等に対する専門家による批評という形で評価されることになる。このような評価は客観性について疑問が投げられる可能性が考えられるが、複数の専門家による批評に加え、市民による評価と合わせて総合的に検討するなどの試みが行われている。社会的価値については、想定される文化と社会の接点（例として、教育、福祉、まちづくり等）が多岐にわたることがあり、その測定の手法も多様なものが考えられる。そのため測定が困難な面があり、評価手法が構築されている途上であるといえよう。

しかしながら多くの文化イベントは行政、企業からのさまざまな支援によって成立していることもあり、その公共性を自ら立証する義務がある。上述の3つの視点のバランスを考慮した企画運営、開催目的の明確化と評価に関する努力が求められているのである。

第2章 音楽祭の開催状況

1. 音楽祭の類型ⁱ

日本におけるクラシック音楽を中心とした音楽祭の開催件数については、やや古いデータになるが、1999年時点で山本（2003年）が行った全国の都道府県への問合せによれば「音楽祭」という名称で行われている催しは140件であったという。また、UFJ 総合研究所（当時）の調査では、社団法人日本演奏連盟『演奏年鑑1993～2002』の演奏会記録から「音楽祭」「フェスティバル」等のキーワードで無作為抽出を行い、一定の条件により音楽祭等にあたらないと判断されるものを除外すると、2001年時点で120件の音楽祭等が開催されたとしている。

これらの調査から10年以上を経過した現時点での状況を音楽雑誌『ショパン』2012年1月別冊の「日本の世界の音楽コンクール全ガイド2012年版」によって把握すると、日本国内で原則として毎年開催されている「音楽祭・セミナー」として104件が掲載されているⁱⁱ。開催件数では減少傾向と想定される音楽祭だが、それでも年間100件を上回る件数が全国で実施されていることがわかる。

上述の山本の研究では、1999年時点の全国調査をもとに音楽祭の分類を行っている。まず内容による分類では「コンサート型」「セミナー型」「コンクール型」の3タイプが挙げられる。「コンサート型」は演奏会のみで構成されるタイプ、「セミナー型」は演奏会に講習会等が併設されるもの、「コンクール型」はコンクールを主体としつつ、その審査員や受賞者による演奏会が開催されるものが代表的な内容となる。しかし、同一の音楽祭が開催年によってその内容を「コンサート型」から「セミナー型」にシフトする例があるなど流動的であることを指摘している。開催地による分類では大都市圏を中心とした「都市型」、地方都市で開催される「地方都市型」、都市から離れた観光地で開催される「リゾート型」といった分類が提示されているが、日本においてはその特色を十分に意識していないものや、開催地の姿勢と実情が一致していない場合が多いという。また、芸術の諸分野のうち音楽のみを扱う「単一型」、他の芸術分野を取り入れた「複合型」という分類も挙げてい

るが、日本で開催されているほとんどの音楽祭は「単一型」であり、開催地を変更して継続していく「移動型」の例は見られず毎年同じ地域で開催する「定地開催型」が大半であることも述べている。

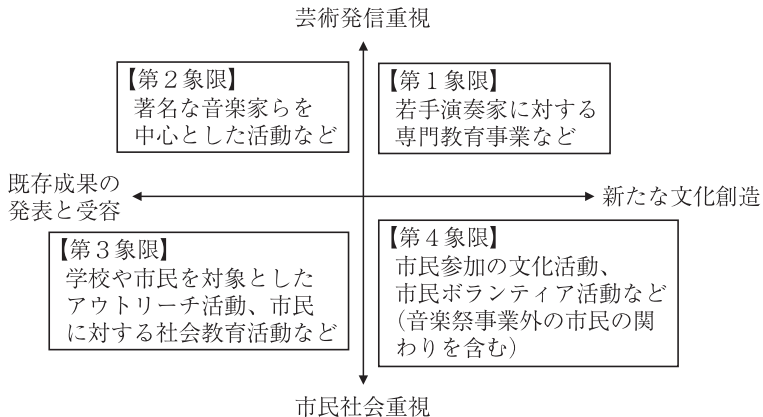
山本の分類は各音楽祭の個性を確認する際に参考になる。特に、開催地の特色を十分に意識していないものや、開催地の姿勢と実情が一致していない場合が多いという指摘は興味深い。リゾート地での開催でありながら観光産業との連携が不十分な例などが見られることも指摘内容に含まれるのではないか。例えば音楽家育成の場となるセミナー型の音楽祭をリゾート地で行う意義は、経済的インパクトの面からは薄いだろう。山本の指摘は、開催地の特性を生かした音楽祭のあり方を考える必要性に関するものであると同時に、音楽祭が産業振興等に影響を与え、経済的価値をも有することを示唆している。

音楽祭の構成要素を分類した研究事例では、ほかに小泉（2009年）が市民社会との関わりと文化創造の視点をクロスさせて整理している（図1）。

小泉の整理は、芸術としての音楽を振興する姿勢と音楽の専門家ではない幅広い市民層にとっての意義を重視する方向を両極とした縦軸に、評価が確

図1 小泉元宏の整理による「音楽祭を構成する諸要素」

*単独の音楽祭が複数の要素を持つ場合もある



出典：小泉元宏「市民社会との関わりから見た音楽祭研究に向けて—『サイトウ・キネン・フェスティバル松本』における市民社会との関わりを事例として—」『音楽教育学』第39巻第2号、2009年

立した既存の作品を守りその価値を伝える方向と若手音楽家や観客の育成や音楽を通じた地域振興など未来志向の姿勢とを両端とした横軸を交差させたもので、音楽祭のみならず文化事業全般の実施目的を確認する指標としても汎用できるものである。特に縦軸とした「芸術発信重視⇔市民社会重視」の視点は、音楽祭の社会的価値を意識したものとなっており、第4象限には音楽祭に関わる活動から地域社会全体へ波及する市民活動への展開を予感させるものが包含されていると思われる。

音楽祭等の文化イベント、文化事業は、山本や小泉による類型を援用しながらその目的や特色を明らかにし、文化的・社会的・経済的価値の各側面から立ち位置を常に確認することが重要であろう。

2. 音楽祭と地域・市民との関係

年間100件を超える件数が実施されている全国の音楽祭であるが、個々の音楽祭の実施内容についてはどのような特色がみられるのだろうか。継続して実施されている音楽祭の内容を詳細に見ていくと、ある種の傾向が見えてくるようである。

例を挙げると、10年以上前の調査ではあるが、2000年度の財団法人音楽文化創造による調査報告書では、武生国際音楽祭（福井県武生市）、おかやま音楽祭（岡山県岡山市）など全国各地で開催されている8つの事例調査等をふまえて、バブル崩壊後の社会状況の中、存続の危機にさらされた音楽祭の課題を整理している。その整理の結果、「地域や地域住民との関係」「ボランティアの参加」が大きなテーマになることを指摘している。

また、伊志嶺（2006年）によれば、特に近年誕生した音楽祭の開催目的や理念は「音楽文化の普及と発展」など音楽に特化するものだけでなく「地域の活性化」「市民の交流」など、複数の目的を有して多義化している。運営面では市民主体の実行委員会や自治体による運営から官民連携の実行委員会への転換など「官から民へ」の流れが見られ、アウトリーチやワークショップなど市民参加型プログラムの増加、地域のアマチュア音楽家やボランティアの参加が進む傾向が明らかになっている。

さらに志村（2010年）が福岡古楽音楽祭を事例に音楽祭運営への市民参加が音楽祭の質の向上にも作用していることに触れるなど、音楽祭に関わる近年の研究では、地域や市民との関係について言及したものが多い。

このように、継続実施されている各地の音楽祭には、「（音楽文化振興にとどまらない）目的の多義化」「官から民へ」「市民参加」「ボランティア」などのキーワードが見えてくる。これらのキーワードはいずれも音楽祭の社会的価値に関連付けられるものであり、文化的・社会的・経済的価値の各側面のうち、特に社会的価値に関わる取り組みが重視されつつある近年の音楽祭の動向を示していると考えられる。

次章ではこうした動向をふまえ、上述のキーワードと前項で提示した音楽祭の分類に照らして「ながさき音楽祭」を検証する。

第3章 「ながさき音楽祭」について

本章では2012年に6回目を迎えた「ながさき音楽祭」について、その概要を述べたうえで、第2章で提示した視点等をもとにその成果と意義を検討する。

1. 「ながさき音楽祭」の概要

長崎県ではクラシック音楽界の登竜門である「長崎県新人演奏会」が35回を迎えたのを機に、これまでに同演奏会で輩出された音楽家の活用を含めた音楽人材の育成と地域のにぎわい創出を目的として、2007年に「ながさき音楽祭」が開始された。

2012年の同音楽祭は9月15日から11月24日までの会期で実施している。長崎県及び長崎県文化団体協議会の主催、県内各自治体や教育委員会、参加事業の実行委員会、音楽団体、大学、文化施設等が共催に名を連ね、県内各報道機関等が後援、東京音楽大学教授の池辺晋一郎氏を顧問として開催された。運営はイベントごとに各地域の自治体や実行委員会が担い（一部は県の事業）、離島を含む県内各地で89件のイベントが実施された。

2. 音楽祭の目的

実施要綱によれば、2012年の同音楽祭の開催目的は「平成19年度から23年度まで実施してきた『ながさき音楽祭』の実績を踏まえ、各地域が主体的に企画・運営する実施体制により、各地域が本来持っている資源に音楽による魅力を加え、音楽による人材の育成や文化芸術に身近に触れ親しむ機会の創出とともに、多くの人々が訪れ、楽しみ、賑わう地域づくりを図る」となっている。この一文を読み込むと、「各地域が本来持っている資源に音楽による魅力を加え」のくだりからは〈地域文化資源の発掘〉、「音楽による人材育成」は〈音楽文化の担い手育成〉、「文化芸術に身近に触れ親しむ機会の創出」は〈県民の文化権（鑑賞機会）の保障〉、「多くの人々が訪れ、楽しみ、賑わう地域づくり」は〈交流人口の拡大〉という、多様な意義が盛り込まれていることがわかる。

- | |
|---|
| <p>●「ながさき音楽祭」開催目的の整理
〈地域文化資源の発掘〉
〈音楽文化の担い手育成〉
〈県民の文化権（鑑賞機会）の保障〉
〈交流人口の拡大〉</p> |
|---|

〈地域文化資源の発掘〉に関連して、同音楽祭では美術館・博物館、教会、酒蔵など、通常は音楽演奏の場として使用されない場所を会場とし演奏とのマッチングにより魅力を向上させる取り組みなどを行っている。また、毎年テーマを掲げて開催されているコンサート「長崎の唄、長崎の音」では、長崎の地で歌い継がれてきた作品をあらためて紹介する機会となっている。〈音楽文化の担い手育成〉については、ジュニアオーケストラと国内外で活躍するプロの演奏家の共演、青少年を対象としたクリニックなどの要素を付加したコンサートの開催、〈県民の文化権（鑑賞機会）の保障〉は文化施設が整備されておらず鑑賞機会に限りがある離島でのコンサート開催などが行われており、音楽祭開催目的に沿った取り組みとなっている。〈交流人口の拡大〉では長崎市内において長崎国際観光コンベンション協会との連携による長崎湾内のクルーズ船上でのコンサート、観光地・雲仙市では旅館・ホテルを含

むまちなかの各所でコンサート等が行われるなど、観光客の集客に貢献する目論見があると思われる取り組みも行われている。

3. 音楽祭の類型から見た「ながさき音楽祭」

「ながさき音楽祭」は上述のとおり2012年においては89件のイベントの集合体であり、個々のイベントがそれぞれの特色を持ちながら運営されている。

ここで、「ながさき音楽祭」全体の特色や傾向を、特に社会的価値の観点から把握するために、第2章でふれた山口による音楽祭の分類と小泉による音楽祭の構成要素に関する整理を援用し、さらに前項でまとめた開催目的に照らして、音楽祭を構成する個々のイベントを分析してみる（表1及び図2～4参照）。

まず、2012年の「ながさき音楽祭」イベントについて、山口による音楽祭の分類を適用すると、「コンクール型」に属するものはなかったと考えられ、ほとんどが「コンサート型」、一部に「セミナー型」が見られ、「コンサート+セミナー型」と思われるものも若干の件数あった。「コンクール型」「セミナー型」は音楽家養成を主たる目的

として実施されるものであると考えられ、「ながさき音楽祭」については、開催目的の一つに「音楽文化の担い手育成」が挙げられるものの、この部分に主目的をおいて実施されているものは多くはないことがわかるⁱⁱⁱ。

図2 「ながさき音楽祭」イベントの実施形態による分類

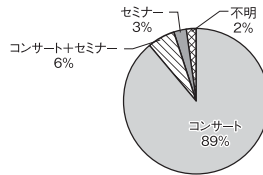
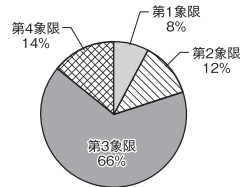
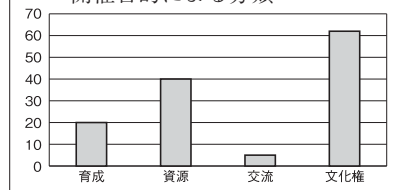


図3 「ながさき音楽祭」イベントの諸要素による分類



注：「諸要素」については、小泉による4象限の整理（図1）参照

図4 「ながさき音楽祭」イベントの開催目的による分類



注：複数目的に分類したものもあるため合計はイベント数の合計に一致しない。

次に小泉による4つの象限を援用し、コンサート等の出演者や参加者など実際に関わっている人々に着目したうえで実施目的を勘案して分類してみると、最も多いのは第3象限、特にアウトリーチ活動や教育目的の取り組みであった。最も少ないのは第1象限に属する若手音楽家の育成を目的としたと思われる取り組みであるが、これは上述のとおり「セミナー型」が少ないこととも合致する。また、有名音楽家等の演奏会開催などが該当する第2象限と、市民参加型やボランティア参加がカギとなる第4象限がほぼ同数程度となっている。「ながさき音楽祭」では運営へのボランティア参加は今後促進の余地がある分野であるが、演奏者としてアマチュア団体等が参加する機会は比較的多いことが見えてくる。

前項で整理した「ながさき音楽祭」の開催目的に沿って個々のイベントを分類してみると（一つのイベントで複数の目的を持つものもあると捉えている）、圧倒的に多いのは「文化権保障型」であった。これは小泉の整理による第3象限への偏りが見られたこととも一致する。次に「地域文化資源発掘型」「人材育成型」と続くが、「交流人口拡大型」はかなり少ない。2011年の同音楽祭イベントの入場者を対象としたアンケート調査によると、回答者4,199名のうち3,940名（93.8%）が長崎県内在住であり、来場するためにかかった経費を尋ねる設問に「宿泊費」と回答した人は3%のみであった^{iv}。演奏者に有名演奏家だけでなくアマチュア団体も多い現状の音楽祭では、コンサート等を目当てに遠方からでも開催地を訪問する観客層の開拓は難しいと考えられ、課題の一つであるといえよう。

このようにいくつかの指標を用いて整理すると、「ながさき音楽祭」は以下のような特徴を持つといえる。すなわち、交流人口の拡大や音楽を専門にする人々の活動の場、育成の場としての側面も有するが、それよりも強い傾向を見せているのが、鑑賞者の裾野を拡大し、文化施設から遠い地域に住む県民、子どもなどへの文化権を保障する効果を発揮している、という点である。これは、「ながさき音楽祭」のように公共団体が主体となって推進する文化イベントとして、その公共性を担保するためには必要とされる要件であり、公的資金の投入や企業協賛の根拠としても有効に作用するものと思われ

音楽祭を通じた芸術文化振興と地域振興

表1 ながさき音楽祭2012開催イベント一覧

開催日	曜日	コンサート	開催地	実施形態	要素	目的
9月15日	土	雲仙音楽祭・雲仙マーチングクリニック(プレイベント)	雲仙市	セミナー	3	育成
9月15日	土	城下町大村秋の音楽祭 オープニングコンサート	大村市	コンサート	2	文化権
9月16日	日	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (OMURA 室内合奏団弦楽四重奏コンサート)	大村市	コンサート	3	文化権
9月16日	日	雲仙音楽祭 雲仙マーチングクリニック	雲仙市	セミナー	3	育成
9月17日	月・祝	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (OMURA 室内合奏団アンサンブル)	大村市	コンサート	3	文化権
9月17日	月・祝	雲仙音楽祭 雲仙マーチングクリニック (ファイナルコンサート)	雲仙市	セミナー、 コンサート	3	育成
9月18日	火	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (歌&演奏)	大村市	コンサート	3	文化権
9月20日	木	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (ピアノ&歌声サロン)	大村市	コンサート	3	文化権
9月20日	木	アルカス SASEBO ファミリーコンサート in 生月町	平戸市	コンサート	3	文化権
9月22日	土・祝	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (OMURA 室内合奏団弦楽四重奏)	大村市	コンサート	3	文化権
9月22日	土・祝	海津乙女の・・・	対馬市	コンサート	2	資源
9月22日	土・祝	佐世保 JAZZ サテライトライブ (ハウステンボス ア レキサンダー広場)	佐世保市	コンサート	3	文化権、資源
9月22日	土・祝	佐世保 JAZZ 街角ライブ	佐世保市	コンサート	4	文化権、育成、資源
9月22日	土・祝	佐世保 JAZZ LATIN LIVE & DANCE NIGHT	佐世保市	コンサート	4	文化権、資源
9月23日	日	海津乙女の・・・	対馬市	コンサート	2	資源
9月23日	日	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (歌とピアノ)	大村市	コンサート	3	文化権
9月23日	日	佐世保 JAZZ サテライトライブ (ハウステンボス ア レキサンダー広場)	佐世保市	コンサート	3	文化権、資源
9月23日	日	佐世保 JAZZ 街角ライブ	佐世保市	コンサート	4	文化権、育成、資源
9月24日	月	佐世保 JAZZ 街角ライブ	佐世保市	コンサート	4	文化権、育成、資源
9月28日	金	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(フルートとピアノ)	大村市	コンサート	3	文化権
9月29日	土	雲仙音楽祭 百花台フェスタ	雲仙市	コンサート	4	文化権
9月29日	土	Project Brass Chamber Series Vol. 2 ～たった14人で!?～	松浦市	コンサート、 セミナー	3	文化権、育成
9月29日	土	しまの夢飛行コンサート	壱岐市	コンサート	3	文化権
9月29日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(合唱)	大村市	コンサート	3	文化権
9月29日	土	れきぶんコンサート 長崎奉行所お月見コンサート	長崎市	コンサート	3	文化権、資源
9月29日	土	佐世保 JAZZ サテライトライブ (ハウステンボス ア レキサンダー広場)	佐世保市	コンサート	3	文化権、資源
9月29日	土	佐世保 JAZZ 街角ライブ	佐世保市	コンサート	4	文化権、育成、資源
9月30日	日	しまの夢飛行コンサート	壱岐市	コンサート	3	文化権
9月30日	日	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (OMURA 室内合奏団 中秋の名月コンサート)	大村市	コンサート	3	文化権
9月30日	日	佐世保 JAZZ サテライトライブ (ハウステンボス ア レキサンダー広場)	佐世保市	コンサート	3	文化権、資源
9月30日	日	佐世保 JAZZ 街角ライブ	佐世保市	コンサート	3	文化権、資源
10月4日	木	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (合唱&歌)	大村市	コンサート	3	文化権
10月5日	金	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(フルート&ピアノ)	大村市	コンサート	3	文化権
10月5日	金	「ひらんの風」コンサート 神浦伝建/鳥のコンサート	平戸市	コンサート	2	資源
10月6日	土	佐世保 JAZZ 街角ライブ	佐世保市	コンサート	4	文化権、育成、資源
10月6日	土	佐世保 JAZZ サタデー・アフタヌーン・コンサート	佐世保市	コンサート	4	文化権、育成、資源
10月6日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(合唱)	大村市	コンサート	3	文化権
10月6日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(合唱)	大村市	コンサート	3	文化権
10月7日	日	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (歌と演奏)	大村市	コンサート	3	文化権
10月7日	日	佐世保 JAZZ サテライトライブ(フレスタ SASEBO)	佐世保市	コンサート	3	文化権、資源
10月7日	日	佐世保 JAZZ サテライトライブ(アルカス SASEBO 広場)	佐世保市	コンサート	3	文化権、資源
10月7日	日	佐世保 JAZZ at アルカス SASEBO	佐世保市	コンサート	2	文化権、資源
10月8日	月・祝	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (OMURA 室内合奏団フルートクアルテット)	大村市	コンサート	3	文化権
10月8日	月・祝	ジュニアオーケストラながさき演奏会	時津町	コンサート、 セミナー	1	育成

音楽祭を通じた芸術文化振興と地域振興

10月9日	火	2012ごとう・ながさき音楽祭 瀬崎明日香ヴァイオリン・コンサート	五島市	コンサート	3	資源、文化権
10月12日	金	「ひらんの風」コンサート 甦る響き「平戸オランダ商館コンサート」	平戸市	コンサート	3	資源、文化権
10月13日	土	城下町大村秋の音楽祭 長崎県新人演奏会40周年記念 OMURA 室内合奏団&輝ける星達	大村市	コンサート	1	育成
10月13日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(合唱)	大村市	コンサート	3	文化権
10月13日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(合唱)	大村市	コンサート	3	文化権
10月14日	日	郷愁のアリア 観光丸クルーズ&コンサート	長崎市	コンサート	3	交流
10月14日	日	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(歌とピアノ)	大村市	コンサート	3	文化権
10月14日	日	長崎県美術館コンサート イブニングライブ音楽祭スペシャル By 活水女子大学	長崎市	コンサート	1	資源、育成
10月14日	日	「ひらんの風」コンサート 甦る響き「宝亀教会コンサート」	平戸市	コンサート	3	資源
10月19日	金	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(歌&演奏)	大村市	コンサート	3	文化権
10月19日	金	雲仙音楽祭 街の賑わいコンサート、ロビーコンサート	雲仙市	コンサート	3	資源、交流
10月20日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (OMURA 室内合奏団フルートクアルテット)	大村市	コンサート	3	文化権
10月20日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート(合唱)	大村市	コンサート	3	文化権
10月20日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (オペラ「ヘンゼルとグレーテル」)	大村市	コンサート	3	文化権
10月20日	土	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (箏曲・尺八演奏)	大村市	コンサート	3	文化権
10月20日	土	雲仙音楽祭 大舞踏会 in 雲仙 前夜祭	雲仙市	コンサート	4	資源、交流
10月20日	土	雲仙音楽祭 街の賑わいコンサート	雲仙市	コンサート	3	資源、交流
10月20日	土	れきぶんコンサート 古楽コンサート～イタリアの調べ～	長崎市	コンサート	2	資源
10月20日	土	ありえ蔵めぐり音楽祭 酒蔵コンサート	南島原市	コンサート	3	資源
10月20日	土	ありえ蔵めぐり音楽祭 蔵めぐりミニコンサート	南島原市	コンサート	3	資源
10月21日	日	城下町大村秋の音楽祭 出前コンサート (ランチタイムコンサート合唱)	大村市	コンサート	3	文化権
10月21日	日	雲仙音楽祭 大舞踏会 in 雲仙 大舞踏会	雲仙市	コンサート	4	資源、交流
10月21日	日	ありえ蔵めぐり音楽祭 蔵めぐりミニコンサート	南島原市	コンサート	3	資源
10月26日	金	城下町大村秋の音楽祭 若手演奏家の為の公開マスタークラス	大村市	セミナー	1	育成
10月27日	土	たのシクフェスティバル2012	長崎市	コンサート	3	文化権
10月27日	土	城下町大村秋の音楽祭 ジュニアオーケストラ・アンサンブルコンサート	大村市	コンサート、セミナー	1	育成、文化権
10月27日	土	城下町大村秋の音楽祭 上海クアルテット結成30周年記念日本ツアー<大村公演>	大村市	コンサート	2	文化権
10月28日	日	たのシクフェスティバル2012	長崎市	コンサート	3	文化権
10月28日	日	長崎の唄、長崎の音～郷～	長崎市	コンサート	3	資源
10月28日	日	「ひらんの風」コンサート プラスの魅力ノトーキン・ファイブ	平戸市	コンサート	2	文化権
10月29日	月	「ひらんの風」コンサート お月見コンサート「武家屋敷で聴く弦楽四重奏」	平戸市	コンサート	3	資源
11月3日	土・祝	長崎県美術館コンサート ヤンネ館野&ベトリ・クメラ デュオコンサート～フィンランドの響き～	長崎市	コンサート	2	資源
11月4日	日	長崎県美術館コンサート イブニングライブ音楽祭スペシャル By 長崎大学	長崎市	コンサート	1	育成、資源
11月7日	水	池辺晋一郎トークコンサート「音楽のからくり、メロディのからくり」	長崎市	コンサート	3	文化権、資源
11月10日	土	まちなか音楽会～NAGASAKI! ストリートLIVE～	長崎市	コンサート	4	文化権、育成
11月10日	土	しまの夢飛行コンサート	対馬市	コンサート	3	文化権
11月11日	日	一支国浪漫コンサート2012	壱岐市	コンサート	3	文化権、資源
11月11日	日	しまの夢飛行コンサート	対馬市	コンサート	3	文化権
11月17日	土	しまの夢飛行コンサート	五島市	コンサート	3	文化権
11月18日	日	しまの夢飛行コンサート	五島市	コンサート	3	文化権
11月21日	水	歌うクラリネットリサイタル	長崎市	コンサート、セミナー	2	資源、育成
11月22日	木	ながさき音楽祭・長崎県新人演奏会記念演奏会	佐世保市	コンサート	1	育成
11月24日	土	いきいきプラス オータムコンサート	壱岐市	コンサート	3	文化権、育成
11月24日	土	郷愁のアリア 長崎県美術館コンサート	長崎市	コンサート	2	資源、文化権
9月22日～10月7日		佐世保 JAZZ SASEBO ナイトクラブ	佐世保市	コンサート	4	資源

る。

なお、あるイベントが開催目的を複数持っている場合、それらすべてを同等レベルで達成しなくてはならないということはなく、力の入れ方及び達成度に濃淡があるのは当然のことである。むしろ、バランスをとろうとすると無理が生じる可能性が高い。分析結果は現状の特性を表現しているものとして捉え、この特性をさらに生かした内容にすべく検討する材料となればよいと考える。

4. 全国の音楽祭の動向との比較

このように盛りだくさんな目的を掲げ、それに応じた取り組みを展開する同音楽祭は、第2章で述べた近年の音楽祭の方向性のひとつである〈目的的多義化〉と合致しているといえる。

第2章でふれた音楽祭の方向性に関する他のキーワードについても同音楽祭の状況を検討してみる。

●近年における音楽祭の傾向
 〈〈音楽文化振興にとどまらない〉目的的多義化〉
 〈官から民へ〉
 〈市民参加〉
 〈ボランティア〉

まず、運営面の〈官から民へ〉については、長崎県と長崎県文化団体連合会という官民双方の組織による共同主催になっていること、共催にも行政組織と音楽団体等民間組織が名を連ねていることなどから形式的には〈官から民へ〉の流れに沿うものであるが、実態は音楽祭全体及び個々のイベントについても事務局機能が行政機関におかれていることが多いと見られ、実質的には行政、特に県主導の事業であることは否めない。民間主体の事業へと転換していくには以下に述べる人材養成が重要なポイントになると思われる。

次に〈市民参加〉については、上述のようにアマチュア音楽団体の出演の機会は比較的多いが、企画立案や運営に市民がさらに積極的に関わる体制をつくることが望まれる。そのためには、自ら企画を立て資金調達を含めてそ

れを実現していくノウハウを蓄積した人材の養成が必要であろう。

〈市民参加〉の一形態とも考えられる〈ボランティア〉については、企画立案までの関わりはなくとも、イベントの準備や当日運営等に必須の人材として、あるいは音楽祭全体の運営、例えば広報面等に関するサポーターとして、もっと多くの県民に間口を広げるべきである。その際、相応のボランティア・マネジメントが求められることになるため、こうしたマネジメントに対応できる人材も市民のなかから育成していく必要がある。

第4章 芸術文化振興と芸術文化を通じた地域振興

まとめにかえて、文化イベントの社会的価値、ひいては芸術文化と社会・地域との関係について考察しておきたい。

芸術や文化と地域社会の関係には、大きく二つの方向がある。ひとつは、芸術や文化の魅力を人々に伝え、文化活動や芸術創造のための環境を整備し、地域において活発な創作活動が行われるようにする方向であり、もうひとつは、文化や芸術の持つ力を地域の課題解決や活性化に活用する方向である。前者を仮に「芸術文化振興」と呼ぶなら、後者はさしずめ「芸術文化を通じた地域振興」といえよう。現在は特に後者に注目が集まっているところであるが、前者が不要なわけではなく、まずは芸術文化が育まれる豊かな土壌があってこそ、芸術文化の持つ力が社会に生かせるのである。

小泉の整理を参考にしつつ、「芸術文化振興」と「芸術文化を通じた地域振興」の観点から音楽祭開催によって期待されるものを整理すると以下のようことが考えられる。

〈芸術文化振興〉

世界の一流どころの演奏を聴かせる [小泉の整理による第2象限]

若手音楽家育成 [第1象限]

市民プレーヤーの発表の場 [第1・4象限]

〈芸術文化を通じた地域振興〉

気軽な音楽鑑賞の場の創出 [第3象限]

交流人口の拡大による経済振興 [第4象限]

音楽祭に関わる地域人材の拡大による活性化（地域への愛着、課題の発見と解決） [第4象限]

近年における音楽祭開催については音楽性とのバランスを考慮しつつも、ボランティア等による市民参加と交流人口の拡大による経済効果、すなわち社会的価値と経済的価値が求められている。つまり「芸術文化を通じた地域振興」の面での貢献を要請されているのだが、この領域において特に重要な視点がある。それは音楽祭に関わる地域人材の拡大による活性化（地域への愛着、課題の発見と解決）をいかに促進するか、という社会的価値を増大させる視点である。

「ながさき音楽祭」を通じて、長崎を愛する人がどれだけ増えるか、またその人々の長崎が抱える地域課題に対する気付きや行動をいかに起こせるか、この点が短期的な集客の多寡よりも重要な成果であり目標ではないかと考える。

こうした視点から「ながさき音楽祭」の今後を展望すると、現在は県内各地の行政や観光関係団体、音楽団体が主だったアクターとなっているところに、第3章でも指摘したとおり、ボランティア等として関わる人材をいかに増やすかという点が課題として再度浮かび上がる。ボランティア的な関わりで多くの県民を巻き込むことはもちろん、音楽祭開催を契機として、音楽関連だけではなくさまざまな地域イベントを企画運営するような、いわば勝手連的な動きが出てくるとおもしろいのではないかと。そのためには、音楽に関わる人材育成だけでなく、音楽を活用した地域づくりの担い手となりうる人材育成に助成するなどの配慮が必要であろう。

音楽を愛し、長崎を愛する人が盛り上げるイベントー「ながさき音楽祭」がそんなに音楽祭になることを夢想しつつ、本稿を閉じる。

（謝辞）本稿の執筆にあたっては「ながさき音楽祭」事務局（長崎県文化振興課）のご協力をいただいた。感謝の意を表します。

音楽祭を通じた芸術文化振興と地域振興

- ⁱ 音楽祭の類型については、ほかに、吉田純子による「人気アーティストが『顔』になるもの」「地元活性に貢献するもの」「教育的理念で世界と連携するもの」という分類（『クラシック・コンサート制作の基礎知識』企画・制作：社団法人日本クラシック音楽事業協会、2013年1月、p17～18）などがある。
- ⁱⁱ ただし、内容を見るとうち25件は一般参加者が参加可能なコンサート等を含まない音楽家養成のためのセミナーと思われる。また同書は音楽・バレエを志す人が自分に適したコンクール等を見つける一助となることを編集目的としているものであり、この目的からはずれる音楽祭等も当然存在しているものと考えられる
- ⁱⁱⁱ ただし音楽祭の各イベントは長崎県内在住の演奏家、特に若手演奏家の出演機会になるよう意図されている。また、コンクール形式の事業については音楽祭とは別途、「長崎県新人演奏会」が実施されている。
- ^{iv} 『ながさき音楽祭2011 記録集』参照
- ^v 一例として、活水女子大学文学部現代日本文化学科で筆者が指導を担当するゼミでは2011・2012年度、学生の企画運営により「ながさき音楽祭」のプロモーション活動や応援企画としてのライブイベント等を実施している。

〈参考文献〉

- 伊志嶺 絵里子「日本の音楽祭の活動状況とマネージメントに関する一考察—市民参加、協働のあり方について—」『文化経済学』第5巻第1号、2006年
- 勝村（松本） 文子、後藤 和子、吉川 郷主「観客アンケートにもとづくこどものための演劇フェスティバルの評価についての分析—キジムナーフェスタを事例として—」『文化経済学』第6巻第3号、2009年
- 小泉 元宏「市民社会との関わりから見た音楽祭研究に向けて—『サイトウ・キネン・フェスティバル松本』における市民社会との関わりを事例として—」『音楽教育学』第39巻第2号、2009年
- 財団法人音楽文化創造『日本の音楽祭・フェスティバル 現状・課題・展望 平成12年度調査委員会報告書』2001年
- 社団法人日本クラシック音楽事業協会『クラシック・コンサート制作の基礎知識』ヤマハミュージックメディア、2013年
- 志村 聖子「市民運営による音楽祭の意義—福岡古楽音楽祭にみる創造性の循環—」『アートマネジメント研究』第11号、2010年
- 杉浦 幹男、花崎 あゆみ「データで見る『音楽祭』」『Arts Policy & Management』No. 17、UFJ 総合研究所、2003年
- ながさき音楽祭事務局（長崎県文化振興課内）『ながさき音楽祭2011 記録集』2012年
- ながさき音楽祭事務局（長崎県文化振興課内）『ながさき音楽祭2012実施要綱』2012年（長崎県資料）

音楽祭を通じた芸術文化振興と地域振興

『日本の世界の音楽コンクール全ガイド2012年版』 ショパン1月別冊、株式会社ハンナ、
2012年

山本 美紀「戦後の日本における国際音楽祭の受容に関する一考察」『文化経済学会』第
3巻第3号、2003年